

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターの
令和2年度業務実績評価における評価指標等（案）

項目1 血管病医療

1 中期目標及び中期計画

視点	中期目標	中期計画
①	○ 血管病医療においては複数の診療科が密接に関連するため、診療科間の連携強化を図り、患者を積極的に受け入れる。	○ 血管病センターを構成する各診療科が連携して検査・治療の提供を行い、血管病に係る高齢者の様々な症例に効果的な対応を進める。 ○ 急性大動脈スーパーネットワークからの積極的な患者受入れを行う。 ○ 東京都脳卒中救急搬送体制におけるt-PA治療可能施設として、t-PA治療及び緊急開頭術、血管内治療術など、超急性期脳卒中患者治療を積極的に行う。 ○ 治療後の早期回復や血管病の予防に向け、早期リハビリテーションの実施や生活習慣病診療の充実を図る。 ○ 病院と研究所とが一体であるメリットを生かし、高齢者の血管病における研究成果の臨床への応用の更なる推進を図る。
②	○ 第一期及び第二期中期目標期間を通じて強化した医療提供体制の下、引き続き高齢者の多様な症例に適切に対応し、高度かつ低侵襲な医療を提供する。	○ 重症心不全患者などの血管病患者に対し、経カテーテル的大動脈弁治療をはじめとする先進的血管病医療に取り組むとともに、その医療体制を更に充実・強化し、個々の患者に適した高度かつ低侵襲な医療を提供する。

2 評価指標等

評価の視点 及び 想定する取組	※「◆」は令和2年度計画上の取組	参考値 ※経年比較	備考
【視点①】 診療科間の連携強化を図り、患者を積極的に受け入れているか	(1) 診療科間連携による患者の受入れ	・患者の年齢構成	
	○急性心血管疾患患者の受入れに係る取組状況		
	◆東京都CCUネットワークや急性大動脈スーパーネットワークからの積極的な患者受入れ	・急性大動脈スーパーネットワークによる患者受入数 ・東京都CCUネットワークによる患者受入数	
	◆ICU及びCCUの運用	・ICU/CCU稼働率 ・ICU/CCU入室患者数 ・平均在室日数	
	○超急性期脳卒中患者の受入れに係る取組状況		
	◆t-PA治療の実施 ◆脳卒中ホットラインの運用	・t-PA治療実施件数	
【視点②】 高齢者の多様な症例に適切に対応し、高度かつ低侵襲な医療を提供しているか	◆SCUの運用	・SCU稼働率 ・SCU入室患者数 ・平均在室日数	
	(2) 治療後の早期回復と血管病予防		
	○治療後の早期回復に向けた取組状況		
	◆早期リハビリテーションの実施	・早期リハビリテーション実施件数（脳血管・心大血管）	
○血管病予防に向けた取組状況			
◆専門外来における診療の推進			
【視点②】 高齢者の多様な症例に適切に対応し、高度かつ低侵襲な医療を提供しているか	(3) 高度かつ低侵襲な医療の提供		
	○高度かつ低侵襲な診療の実績		
	◆ハイブリッド手術室や血管造影室を活用した高度かつ低侵襲な治療の実施	・高度かつ低侵襲な治療の実施件数	詳細は別紙参照
	◆先進的治療の実施	【保留】QOLや自立機能の改善状況（治療のアウトカム）	第四期に向けて検討
○高度かつ多様な治療の提供体制の整備			
◆設備や施設基準等の維持・整備			

項目2 高齢者がん医療

1 中期目標及び中期計画

視点	中期目標	中期計画
①	○ 高齢者の生活の質の維持・向上に配慮し、高度かつ低侵襲な医療を提供する。	○ 高齢化に伴い罹(り)患率・死亡率が高まるがんについて、最新医療機器を用いた各種検査を実施し、がんの早期発見と早期の治療を実施し、症例の重症化防止に努める。
②	○ 集学的ながん治療の提供体制を確保し、標準的治療を提供するとともに、がん診療に関する相談体制の強化、緩和ケアの充実等を図る。	○ PET検査等によるがんの早期発見や転移・再発の検索などに加えて、低侵襲ながん治療を推進するとともに、化学療法、放射線療法等を効果的に組み合わせた集学的治療を提供する。 ○ 患者や家族が安心して療養生活を送るため、がん相談支援センターを中心に、センター内外のがん患者やその家族に対するがん治療の専門相談を実施するとともに、近隣の医療機関や地域住民からの相談への対応や、がん相談支援センターの周知に取り組み、地域におけるがん医療の一層の充実を図る。 ○ がん患者やその家族に対する身体的、精神的苦痛の緩和を図るため、治療の初期段階から緩和ケア診療・家族ケアを実施する。

2 評価指標等

評価の視点 及び	想定する取組 ※「◆」は令和2年度計画上の取組	参考値 ※経年比較	備考
【視点①】 高齢者の生活の質の維持・向上に配慮し、高度かつ低侵襲な医療が提供されているか	(1) 高度かつ低侵襲な医療の提供	・患者数の年齢構成 【保留】治療のアウトカム指標（5年生存率、再発率等）	第四期に向けて検討
	○高度かつ低侵襲な診療の実績		
	◆高度な医療機器を活用したがんの早期発見と早期治療		
	◆低侵襲な鑑別診断やがん治療	・低侵襲な鑑別診断の実施件数 ・低侵襲な治療の実施件数 ・保険収載PET検査の実施件数	詳細は別紙参照
【視点②】 がん診療に関する相談体制の強化や、緩和ケアの充実が図られているか	○集学的がん治療の提供	・外来化学療法実施件数（診療報酬上の加算請求件数）	
	◆化学療法や放射線治療の充実		
	(2) がんの相談体制や緩和ケア治療の提供体制		
	○がんの相談体制の強化に向けた取組状況		
	◆がん相談支援センターの運営	・がん相談支援センターにおける相談実績（件数、内訳）	
○緩和ケアの充実に向けた取組状況			
◆多職種によるチームケアの充実			
◆緩和ケア診療の実施	・医師等に対する緩和ケア研修会の開催実績（回数、参加者数）		
◆家族ケアの実施			

項目3 認知症医療

1 中期目標及び中期計画

視点	中期目標	中期計画
①	○ 病院と研究所との連携による診断法・治療法の開発などにより、認知症医療の進歩に貢献する。	○ 病院と研究所とが一体であるメリットを生かし、認知症の発症機序の解明、早期診断法・発症予測や記憶障害の改善治療の開発等を行うとともに、MRI、SPECT、PET等の画像を活用した認知症の早期診断・早期発見に努める。 ○ 認知症に関する研究や治験の受託を推進するとともに認知リハビリテーションにおける介入方法の改善・普及に取り組むなど、認知症に係る治療の向上を図る。
②	○ 区西北部二次保健医療圏における地域拠点型認知症疾患医療センターとして、高度な専門性や医療体制を生かし、地域における認知症医療の体制強化を推進する。	○ 東京都認知症疾患医療センターとして、多職種チームが専門性を生かした受療相談や、地域連携機関の要請を受けて認知症高齢者を訪問するアウトリーチ活動を実施するなど、認知症医療・福祉への貢献に努める。 ○ 医師や看護師への対応力向上研修や医療・介護に関わる関係者から構成される連携協議会の開催等を通じて、認知症に対する地域の人材育成や地域連携の推進に努める。
③	○ 身体疾患で入院する認知症症状を有する患者に対し、院内の連携体制を確保することにより、認知症症状を悪化させず、適切な医療を提供する。	○ 認知症ケアチームを中心として、認知症症状を有する内科・外科患者のQOL（生活の質）の向上を図るための認知症ケアを推進する。 ○ 入院患者に対してDASC-21（認知症アセスメントシート）に基づく評価を行うなど、認知症に対する早期ケアを推進する。

2 評価指標等

評価の視点 及び 想定する取組 ※「◆」は令和2年度計画上の取組		参考値 ※経年比較	備考
【視点①】 病院と研究所との連携による診断法・治療法の開発等により、認知症医療の進歩に貢献しているか	(1) 認知症診断の精度向上 ○病院・研究所とが一体であるメリットを活かした取組状況 ◆MRIやSPECT、PETの画像等を活用した診断精度の向上 ◆治験の受託や認知リハビリテーション等を通じた治療法開発への貢献 ○早期診断や診断精度の向上結果等の普及還元に向けた取組 →主に項目14-2「認知症支援の推進に向けた取組」で評価する	・MRI、SPECT、PET 検査の件数	PETは研究目的で実施した件数である
	(2) 地域における認知症医療の体制強化 ○認知症疾患医療センターにおける取組状況 ◆多職種チームによる受療相談 ◆認知症高齢者に対するアウトリーチ ○認知症に対する地域の人材育成や地域連携の推進に向けた取組状況 ◆地域の医療従事者等に対する対応力向上研修の実施 ◆医療・介護の関係者から構成される連携協議会の開催 ○認知症支援推進センターにおける取組状況 →主に項目14-2「認知症支援の推進に向けた取組」で見る	・専門医療相談件数 ・訪問支援延件数 ・地域における医師等への研修会実施実績（件数・参加者数）	
【視点③】 院内の連携体制により、認知症症状を悪化させず、適切な医療を提供しているか	(3) 適切な医療の提供 ○物忘れ外来における専門的医療の取組状況 →主に項目4「生活機能の維持・回復のための医療」で見る	・受診患者の年齢構成	
	○認知症ケアの取組状況 ◆認知症ケアチームを中心とした認知症ケアの推進 ◆DASC-21などを活用した早期ケアの推進	【保留】ケアのアウトカム指標	第四期に向けて検討
	○患者・家族への支援の実施状況	・当事者の会・家族交流会等の開催実績（回数・参加者数）	

項目4 生活機能の維持・回復のための医療

1 中期目標及び中期計画

視点	中期目標	中期計画
①	○ 多様な診療科で構成される法人の医療体制を生かし、複数疾患を抱える患者や重症度の高い患者を積極的に受け入れ、適切な急性期医療を提供する。	○ 適切な急性期医療の提供のため、東京都CCUネットワークや急性大動脈スーパーネットワークなどへの参画を通じて、重症度の高い患者の積極的な受け入れに努めるとともに、ICU（特定集中治療ユニット）、CCU（冠動脈治療ユニット）、SCU（脳卒中治療ユニット）を効率的かつ効果的に運用する。
②	○ 重点医療以外の診療分野においても、高齢者に特有な疾患に対応した専門医療を提供する。	○ サルコペニア、フレイルなどに代表される高齢者特有の臨床症状に対応するため、多職種協働による医療の提供や専門外来の設置を積極的に行う。
③・④	○ 患者の身体機能・認知機能の低下を防ぎ、退院後の生活の質を確保するため、退院後の生活も視野に入れた医療を提供するとともに、患者の状態に応じた適切な入退院支援や、地域の医療機関や介護事業者、関係機関との連携等により、患者の地域生活の継続を支援する。	○ 退院後のQOLの確保に向け、CGAやフレイル評価等を用いた検査により、入院時から退院を視野に入れた治療の提供と適切な退院支援を実施する。
⑤	○ 法人が提供してきた「治し支える医療」を、高齢者医療モデルとして確立し、その普及に取り組む。	○ 「治し支える医療」の観点から、これまでセンターが患者の各ステージにおいて提供してきた広範な各種取組について、高齢者医療モデルとして都内全域に発信し、広く普及を図る。

2 評価指標等

評価の視点 及び 想定する取組	※「◆」は令和2年度計画上の取組	参考値 ※経年比較	備考
【視点①】 複数疾患や重症患者を受け入れ、適切な急性期医療を提供しているか	(1) 適切な急性期医療の提供 ○複数疾患、重症患者の受け入れに係る取組状況 ◆東京都CCUネットワークや急性大動脈スーパーネットワークからの積極的な患者受け入れ ◆ICU、CCU、SCUの効率的・効果的運用		
【視点②】 重点医療以外の分野でも、高齢者に特有な疾患に対応した専門医療が提供されているか	(2) 高齢者に特有な疾患に対応した専門医療の提供 ○サルコペニア、フレイルなど高齢者に特有な疾患に対応した専門医療の提供 ◆フレイル、ロコモ等の専門外来の充実 ○薬剤管理やポリファーマシーへの取組状況 ○栄養・褥瘡・退院支援に対する多職種協働による取組状況 ◆チーム医療の推進	・各専門外来の患者数 ・薬剤管理指導業務算定件数	
【視点③】 身体・認知機能の低下を防ぎ、退院後の生活の質を確保するため、退院後の生活も視野に入れた医療を提供しているか 【視点④】 患者の状態に応じた入退院支援や、地域の医療機関や介護事業者、関係機関との連携等により、患者の地域生活の継続を支援しているか	(3) 適切な入退院支援の実施 ○入院時から退院を視野に入れた治療に係る取組状況 ◆入院時におけるCGAの実施 ◆包括的な口腔機能管理の実施 ○適切な退院支援の取組状況 ◆個々の患者に応じたリハビリテーションの実施 ◆多職種カンファレンスや退院支援カンファレンスの実施	・平均在院日数 ・入退院支援加算1算定件数 ・高齢者総合機能評価（CGA）の加算算定率 ・医療従事者向け講演会実施件数 ・早期リハビリテーション実施件数 ・在宅復帰率	総合評価加算算定件数÷新入院患者数（65歳未満及び一部のパス入院患者を除く）
【視点⑤】 「治し支える医療」を高齢者医療モデルとして確立し、その普及に取り組んでいるか	(4) 高齢者医療モデルの確立 ○経口摂取開始チャート等のモデル化に向けた取組状況 ○高齢者医療モデルの普及に向けた取組状況		

項目5 医療の質の確保・向上

1 中期目標及び中期計画

視点	中期目標	中期計画
①	○ 医師、医療技術職、看護師等の職員の専門性の向上、クリニカルパスの活用・検証、外部評価の受審などにより、医療の質の確保・向上を図る。	○ 医師、医療技術職、看護師等の職員の専門性の向上を図るため、専門的かつ高度な技術を有する職員の育成に努めるとともに、DPCデータや高齢者の特性に配慮したクリニカルパスの分析や検証、また外部評価も活用して、医療の標準化・効率化を推進する。
②	○ 高齢者医療の専門病院として医療の質を表す指標を明確にし、その指標に基づき自らの医療を評価・検証し、継続的な改善に取り組む。	○ 医療の質の指標について検討・設定し、センターの医療の質の客観的な評価・検証を行うとともに、指標の積極的な公開に努め、センター医療の透明性の向上や医療内容の充実を図る。

2 評価指標等

評価の視点 及び	想定する取組 ※「◆」は令和2年度計画上の取組	参考値 ※経年比較	備考
【視点①】 医師、医療技術職、看護師等の職員の専門性の向上、クリニカルパスの活用・検証、外部評価の受審などにより、医療の質の確保・向上が図られているか	(1) 医療の質の確保・向上 ○職員の専門性向上に向けた取組状況 ◆研修や勉強会の実施 ◆専門資格の取得実績 →主に項目16「地独法の特性を生かした業務の改善・効率化」で見る	・高齢者看護スキルアップ研修の開催回数	
	○DPCデータやクリニカルパスの分析・検証状況	・クリニカルパス数 ・クリニカルパス適用率 ・クリニカルパスの見直し件数	
【視点②】 医療の質を表す指標を明確にして、自らの医療を評価・検証し、継続的な改善に取り組んでいるか	(2) 医療の質の指標 ○医療の質の指標の検討・設定状況		
	○センターの医療の質の客観的な評価・検証、改善状況		

項目6 救急医療

1 中期目標及び中期計画

視点	中期目標	中期計画
①	○ 都民が安心できる救急医療の実現に貢献するため、地域救急医療センター及び二次救急医療機関としての役割を堅持し、複数疾患を抱える患者や重症度の高い患者の積極的な受入れに取り組む。	○ 都民が安心できる救急医療の体制の確保のため、地域救急医療センター及び二次救急医療機関として救急患者の積極的かつ迅速な受入れに努める。 ○ 救急診療部を中心に、救急患者の対応についての検証、問題点の把握・改善を行い、「断らない救急」の推進に取り組む。

2 評価指標等

評価の視点 及び	想定する取組 ※「◆」は令和2年度計画上の取組	参考値 ※経年比較	備考
【視点①】 地域救急医療センター及び二次救急医療機関としての役割を堅持し、複数疾患を抱える患者や重症度の高い患者の積極的な受入れに取り組んでいるか	(1) 都民が安心できる救急医療体制の確保		
	○「断らない救急」の推進		
	◆救急患者対応についての検証や、問題点の把握・改善		
	◆地域の関係機関との連携による早期退院の促進や救急患者の迅速な受入れ		
	○救急医療に関わる医師や看護師などの教育・指導に係る取組状況	・症例カンファレンスや学習会の開催件数	
	(2) 救急患者の積極的な受入れ		
	○救急患者の受入実績	・救急患者受入数（年齢構成） ・来院手段の内訳 ・搬送後の入院率 ・救急患者断り率 ・東京ルール搬送患者受入数及び受入率	救急隊受入入院数÷救急隊受入総数 断り数（救急隊・医療機関・家族本人等）÷救急総依頼数（救急隊・医療機関・家族本人等） 受入数÷依頼数 ※救急外来から用紙を集計

項目7 地域連携の推進

1 中期目標及び中期計画

視点	中期目標	中期計画
①	○ 患者の状況や治療法等の情報を地域の医療機関と共有し、疾病の早期発見・早期治療を目指す。	○ ICT等も活用し、連携医療機関や連携医との関係強化、高額医療機器等の共同利用の促進、公開CPC（臨床病理検討会）や研修会の開催等を通じて、疾病の早期発見・早期治療に向けた地域連携の推進を図る。
②	○ 退院後も質の高いケアを受けられるよう、地域の医療機関や介護事業者、関係機関と連携し、適切な入退院支援を行うなど、在宅療養を支える地域の仕組みづくりに貢献する。	○ 地域連携クリニカルバスや在宅医療連携病床の活用、在宅看護相談室の充実等を通じた適切な入退院支援を行うことで、地域の医療機関や訪問看護ステーション、介護施設等と連携して、高齢者の質の高い在宅療養を実現する。
③	○ 隣接する特別養護老人ホームなど地域の介護施設や関係機関と連携し、各施設の入所者に対して適切な医療が提供されるよう支援する。	○ 退院前合同カンファレンスや専門・認定看護師によるセミナー等を通じて、隣接する特別養護老人ホームなどの介護施設等との連携強化や積極的支援を行う。
④	○ 地域の医療機関や関係機関とも連携し、災害拠点病院として、災害時の必要な運営体制を確保する。	○ 東京都災害拠点病院として、DMAT（災害派遣医療チーム）の整備など災害時に必要な運営体制を確保するとともに、地域の医療機関や関係機関と連携した大規模災害訓練を実施するなど、災害時の医療拠点として地域に貢献する。

2 評価指標等

評価の視点 及び	想定する取組 ※「◆」は令和2年度計画上の取組	参考値 ※経年比較	備考								
【視点①】 患者の状況や治療法等の情報を地域の医療機関と共有し、疾病の早期発見・治療を目指しているか	(1) 地域における疾病の早期発見・早期治療 ○地域の医療機関との連携強化に向けた取組状況 ◆情報共有の強化 ◆高額医療機器等の共同利用の促進 ◆公開CPCや研修会の開催 ◆紹介患者受入れの強化と逆紹介の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・連携医療機関数、連携医数 ・高額医療機器の共同利用件数 ・医療者向けセミナーや公開CPC等の開催回数 ・紹介率、逆紹介率 									
				【視点②】 地域の医療機関や介護事業者、関係機関と連携し、適切な入退院支援を行うなど、在宅療養を支える地域の仕組みづくりに貢献しているか	(2) 退院患者の在宅療養を支える取組 ○地域の関係機関との連携強化 ◆退院前合同カンファレンスや退院時同行訪問の実施 ◆セミナーや意見交換会の開催 ◆在宅看護相談室等による相談・支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーションとの連携による意見交換会や専門相談窓口等の実績（回数、相談受付数） 					
								【視点③】 地域の介護施設や関係機関と連携し、入所者に対して適切な医療が提供されるよう支援しているか	○質の高い在宅療養に向けた適切な入退院支援 ◆地域連携クリニカルバスの活用 ◆在宅医療連携病床の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携クリニカルバスの実施件数（脳卒中） ・在宅医療連携病床における受付件数 	

項目 8 医療安全対策の徹底

1 中期目標及び中期計画

視点	中期目標	中期計画
①、 ②	○ 都民から信頼される安全な医療を提供するため、医療事故防止対策及び院内感染防止対策を確実に実施するとともに、その効果を検証し、より有効な対策を継続して実施する。	○ 医療安全管理委員会や特定感染症予防対策委員会の機能を一層強化するとともに、インシデント・アクシデントレポートをはじめ、院内における迅速な各種報告及び対応を徹底するなど、医療安全対策及び感染防止対策をより一層強化する。 これらの取組から得られた成果及び課題を踏まえ、医療安全管理指針等の各種規程の整備や見直しを行い、継続的・組織的な改善を図る。
②	○ 医療の安全を確保するために、医療法（昭和23年法律第205号）に基づく医療事故調査制度に対応する。	○ 医療事故調査制度への適切な対応のため、院内死亡症例におけるAi（死亡時画像診断）や病理解剖実施を推進するとともに、院外からのAi及び読影依頼にも対応可能な体制整備を図り、医療安全の確保を図る。

2 評価指標等

評価の視点 及び 想定する取組 ※「◆」は令和2年度計画上の取組	参考値 ※経年比較	備考	
【視点①】 医療事故防止対策及び院内感染防止対策を確実に実施しているか	(1) 医療事故防止の取組		
	○医療安全管理体制の強化に向けた取組状況 ◆医療安全管理委員会を中心とした、リスク・課題の把握と改善策の実施及び効果検証		
	○職員の医療安全に対する意識の向上に向けた取組状況 ◆研修や講演会の実施	・講演会の開催実績（回数、参加者数）	
	○組織的な事故防止対策の取組状況 ◆インシデント・アクシデントレポートの活用	・転倒・転落事故発生率 ・医療従事者の針刺し事故発生件数（針刺し切創、皮膚粘膜汚染）	
	【視点②】 医療事故防止対策及び院内感染防止対策の効果を検証し、より有効な対策を継続して実施しているか	(2) 感染防止対策の取組	
		○地域ぐるみの感染防止対策の取組状況 ◆地域の医療機関との定期的な協議の実施	・感染防止対策連携カンファレンスの実施回数
○院内における感染防止対策の徹底に向けた取組状況 ◆感染対策チームによる情報収集や分析 ◆職員に対する研修会等の実施		・院内感染症対策研修会の開催実績（参加率）	
【視点③】 医療法（昭和23年法律第205号）に基づく医療事故調査制度に対応しているか	(3) 医療事故調査制度の対応		
	○医療事故調査制度への適切な対応に向けた取組状況 ◆院内死亡症例における Ai（死亡時画像診断）や病理解剖の実施		

項目9 患者中心の医療の実践・患者サービスの向上

1 中期目標及び中期計画

視点	中期目標	中期計画
①	○ 相談体制の充実や患者の立場に立った接遇、患者アメニティの向上など、患者中心の医療を実践し、患者サービスの一層の向上に取り組む。	○ 患者やその家族が十分な理解と信頼の下に検査・治療を受けられるよう、インフォームド・コンセントの一層の徹底を図る。 ○ 患者等が主治医以外の専門医の意見・判断を求めた場合や、他医療機関から意見を求められた場合に適切に対応できるよう、セカンドオピニオンや相談支援体制の充実とその実施に係る適切な情報発信に取り組む。 ○ 患者に寄り添った医療・看護の提供を行うほか、シニアボランティアの積極的な活用やタブレット等のIT機器を使用して患者へ分かりやすい説明を行うなど、充実した療養環境の確保に努めていく。
②	○ これらの取組が、患者から見て信頼かつ満足できるものであるか、患者ニーズの把握等により、絶えずサービス内容を検証し、一層の改善に取り組む。	○ ご意見箱、患者満足度調査、退院時アンケート調査等、様々な場面で患者及びその家族の満足度やニーズの把握に努め、その結果の分析や対応策の検討を行い、患者・家族の視点に立った不断のサービス改善に努めていく。

2 評価指標等

評価の視点	及び 想定する取組 ※「◆」は令和2年度計画上の取組	参考値 ※経年比較	備考
【視点①】 相談体制の充実、患者の立場に立った接遇、患者アメニティの向上など、患者中心の医療を実践し、患者サービスの一層の向上に取り組んでいるか	(1) サービスの一層の向上に向けた取組		
	○相談支援体制の充実を始めとした患者からの信頼確保に向けた取組		
	◆インフォームド・コンセントの徹底		
	◆セカンドオピニオン外来の実施		・セカンドオピニオン利用患者数
	○充実した療養環境に向けた取組状況		
	◆シニアボランティアの活用		
【視点②】 患者ニーズの把握等によりサービス内容を検証し、一層の改善に取り組んでいるか	◆IT機器の活用		
	○患者の立場に立った接遇に向けた取組状況		
	◆職員に対する接遇研修の実施		・接遇研修参加者数
	(2) サービスの検証及び改善		
	○患者ニーズの分析・検証結果とサービスの改善状況		
	◆ご意見箱や患者満足度調査、退院時アンケート調査等の活用		・ご意見箱実績（意見・要望） ・入院患者満足度、外来患者満足度

項目 10 高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究

1 中期目標及び中期計画

視点	中期目標	中期計画
①、 ②	○ 血管病、高齢者がん、認知症など高齢者に特有な疾患や、サルコペニア、フレイル等、高齢者特有の臨床症状である老年症候群の克服に向けて、研究を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 血管病、高齢者がん、認知症などの予防・早期発見・治療のため、これら老年疾患と細胞老化や病態等の解明を進め、臨床部門とも共同して有効な治療法等の開発に努めていく。 ○ 高齢者特有の臨床症状であるサルコペニア、フレイル等老年症候群の克服に向け、その発症機序の解明と早期の診断方法、有効な予防・治療法の開発等に努め、高齢者の生活の質の改善を図る。 ○ 老化制御や老化関連疾患に作用する遺伝子や化合物の同定及びその機序解明に取り組むとともに、老化抑制や高齢者疾患の治療に向けて適切な薬剤等の投与方法の開発など臨床への適用を探索する。 ○ PETを用いた認知症やがんに関する新たな画像解析手法や早期診断法、放射性薬剤の開発等に取り組むほか、国内外の治験に積極的に協力をを行い、研究成果の社会的な還元に努める。

2 評価指標等

評価の視点 及び	想定する取組 ※「◆」は令和2年度計画上の取組	参考値 ※経年比較	備考
【視点①】 重点医療をはじめとした高齢者に特有な疾患に関する研究に継続的に取り組んでいるか	(1) 3つの重点医療に係る研究 ○3つの重点医療に係る研究の進捗状況・成果		※当該研究の目標・意義、研究の進捗状況・今後の見通し、研究成果・活用の見通し等については、対応可能な範囲で実績報告に記載していく
	(2) 老化制御、老化関連疾患に係る研究 ○老化制御、老化関連疾患に係る研究の進捗状況・成果		
【視点②】 サルコペニア、フレイル等老年症候群の克服に向けた研究を更に推進しているか	(3) サルコペニア、フレイル等老年症候群に係る研究 ○サルコペニア、フレイル等老年症候群に係る研究の進捗状況・成果		

項目 11 高齢者の地域での生活を支える研究

1 中期目標及び中期計画

視点	中期目標	中期計画
①、②	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者の社会参加の促進やフレイル予防に資する研究、認知症をはじめ疾患・障害を抱えた高齢者を支えるための研究など、高齢者の地域での生活を支える研究を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ヘルシー・エイジング（身体的、精神的及び社会的な機能を保ちながら自律した生活を送ること。）及び超高齢社会で求められるプロダクティブ・エイジング（生産的・創造的活動を行い、その知識や経験で社会貢献する高齢者像を目指す考え方）の促進のため、フレイル・認知症の一次予防や、高齢者の就労の促進・多世代共生社会の実現に向けた研究を行う。 ○ 身体的フレイル及び認知的フレイルの機序解明と予防プログラムの開発を行うとともに、認知症を含む精神疾患を抱える高齢者の在宅生活を支援する地域ケアモデルの構築に注力する。 ○ 在宅療養患者等への支援のあり方について幅広い研究を行うほか、レセプト分析を通じた医療・介護システムに係る研究など、地域包括ケアシステムの構築につながる基盤的研究を行う。

2 評価指標等

評価の視点	及び 想定する取組	※「◆」は令和2年度計画上の取組	参考値	※経年比較	備考
【視点①】 高齢者の社会参加の促進やフレイル予防に資する研究に取り組んでいるか	(1) 高齢者の社会貢献・自立した生活に関する研究				※当該研究の目標・意義、研究の進捗状況・今後の見通し、研究成果・活用の見通し等については、対応可能な範囲で実績報告に記載していく
		○高齢者の社会貢献・自立した生活に関する研究の進捗状況・成果			
	(2) フレイルの機序解明と予防プログラムの開発に係る研究				
		○フレイルの機序解明と予防プログラムの開発に係る研究の進捗状況・成果			
【視点②】 認知症をはじめ疾患・障害を抱える高齢者の地域における生活を支援するための研究に取り組んでいるか	(3) 認知症高齢者や要介護高齢者の在宅生活の支援に係る研究				
		○認知症高齢者や要介護高齢者の在宅生活の支援に係る研究の進捗状況・成果			

項目 12 老年学研究におけるリーダーシップの発揮

1 中期目標及び中期計画

視点	中期目標	中期計画
①	○ 高齢者ブレインバンクの活用や国内外の研究機関との更なるネットワークの強化等により、老年学研究や医学の発展に貢献する。	○ 高齢者ブレインバンクの一層の充実及び生体試料を用いたセンター内外における研究の促進など、センターの持つ財産を積極的に活用し、国内外の研究機関との連携を推進することで、都における老年学研究拠点としての役割を果たしていく。
②	○ 国内外の老年学関連学会において中心的な役割を果たすなど、老年学研究におけるリーダーシップを発揮する。	○ 国内外の学会における論文発表や研究成果の公表、学会運営への参加を一層進めていくほか、ICTやロボット技術等の研究・医工連携等についても積極的に関与し、老年学研究におけるリーダーシップを引き続き発揮していく。 ○ センター内において、セミナーや研修など自己啓発の機会を提供するとともに、国内外からも研究員や留学生等の受入れを行い、老年学研究においてリーダーシップを発揮する人材育成を図る。

2 評価指標等

評価の視点 及び 想定する取組	※「◆」は令和2年度計画上の取組	参考値 ※経年比較	備考
【視点①】 老年学研究や医学の発展に貢献しているか(ブレインバンクの活用や国内外の研究機関とのネットワーク強化等)	(1) ブレインバンク		
	○ 高齢者ブレインバンクの充実に向けた取組状況	・ブレインバンク新規登録件数	
	◆ブレインバンクを活用した研究の推進状況	・ハイオリソース共同研究数	
	(2) 国内外の研究機関との連携		
【視点②】 老年学研究におけるリーダーシップを発揮しているか(国内外の老年学関連学会において中心的な役割を果たす等)	○ 国内外の研究機関との連携推進に係る取組状況	・共同研究・受託研究・受託事業・学術指導実施件数	
	◆共同研究や受託研究等の実施	・研究機関からの研究員・留学生等の受入人数	
	◆研究員や留学生の受入れ		
	(3) 国内外における研究成果の公表状況・研究の質		
	○ 研究成果の公表状況	・論文発表数	
	◆論文発表や学会発表	・学会発表数(うち、国際学会での発表数) ・研究員一人あたりの学会発表数・論文発表数	
○ 質の高い研究	・科研費新規採択率		
◆競争的な外部資金への積極的な応募	・著名誌への論文掲載数		

項目 13 研究推進のための基盤強化と成果の還元

1 中期目標及び中期計画

視点	中期目標	中期計画
①	○ 研究費獲得競争の激化、倫理指針対応や知的財産の管理・活用業務の複雑化等の課題に対応し、臨床研究を含む法人の研究全般を推進するための基盤を強化する。	○ 病院と研究所の連携、外部研究資金の獲得支援、民間企業・自治体・大学等との橋渡し、高い研究倫理の維持、知的財産活用、研究成果の社会への還元等、研究者や臨床医師が行う研究に係る包括的な支援を実施するため、新たな支援組織の立上げを行う。
②	○ 法人外部の意見を活用するなど、研究成果の厳正な評価を行い、より効率的・効果的な研究活動を推進する。	○ 研究計画の進行管理を適切に行うとともに、外部の有識者からなる評価委員会を開催し、研究成果の評価を行う。
③	○ 研究成果として得た新技術や技術的知見を実用化するため、特許等の取得に努めるとともに、取得後はその意義・有用性を積極的に広報し、使用許諾を促進する。	○ 研究所の知的財産を適切に管理しながら技術開発等の検討もを行い、特許出願や研究成果の実用化を目指す。また、知的財産管理の強化に向け、体制を整備する。
④	○ 公的研究機関として、多様な機会を通じて研究内容及び研究成果を公表するとともに、行政施策への提言を積極的に行うなど、研究成果のより一層の普及・還元を行う。	○ 都における高齢者研究の拠点として、研究成果の全般的な普及とその還元を図るため、積極的な情報発信に努める。 ○ 審議会への参加などにより都をはじめとする自治体や国、公共団体への政策提言を積極的に行うほか、研究成果の社会還元に努める。

2 評価指標等

評価の視点 及び	想定する取組 ※「◆」は令和2年度計画上の取組	参考値 ※経年比較	備考
【視点①】 研究を取り巻く環境の変化を踏まえ、研究を推進する基盤の強化に取り組んでいるか	(1) 研究基盤の強化 ○研究基盤の強化に向けた取組状況 ◆健康長寿イノベーションセンター（HAIC）による取組 ◆外部研究資金の獲得 ◆研究所版インシデント・アクシデントレポートの活用		・外部資金獲得件数、外部資金獲得金額
	【視点②】 研究成果の厳正な評価を行い、より効率的・効果的な研究活動を推進しているか	○効率的・効果的な研究活動の推進 ◆研究計画の進行管理 ◆外部評価の活用	
【視点③】 研究成果の実用化に向けて取り組んでいるか	(2) 研究成果の普及・還元 ○知財管理や実用化に向けた取組状況 ◆知財管理の強化に向けた体制の整備		・特許新規申請数
	○積極的な情報発信に向けた取組状況 ◆都民向け講座の実施 ◆研究成果に係る広報物の作成・発信		・都民向け講座開催実績（回数、参加者数） ・プレス件数 ・HP アクセス件数（研究所トップページ）
【視点④】 研究成果の公表や行政施策への提言により、研究成果のより一層の普及・還元に向けて取り組んでいるか	○政策への寄与の状況 ◆行政からの委託研究、行政への政策提言 ◆ガイドライン等への寄与		・審議会等参加数

項目 14 医療と研究が一体となった取組の推進

1 中期目標及び中期計画

視点	中期目標	中期計画
①	○ 臨床研究及び病院と研究所の共同研究を一層推進し、研究成果の臨床応用、実用化へつなげる取組を推進する。	○ センター内における萌(ほう)芽研究の発掘や戦略的な研究計画の策定、国内外の民間企業・大学等との共同研究の推進、知的財産管理、研究内容の普及・啓発等について、研究支援組織を中心にして包括的に支援し、老年学・老年医学に係る高い研究成果の創出に努める。 ○ これまでに病院が行ってきた高齢者の全身状態を悪化させないための各種取組をまとめた医療モデルについて、研究所において当該モデルの質に係る適正な評価とその更なる改善を行い、その確立と普及に向けてセンター全体で取り組んでいく。 ○ 東京ハイオマーカー・イノベーション技術研究組合(TOBIRA)等を活用して産・学・公の連携を強化し、外部機関と積極的に知見・技術の情報共有や臨床研究の共同実施を行う。
②	○ 認知症高齢者とその家族の地域生活を支えるため、病院、研究所で培った知見、ノウハウを生かした認知症支援の推進に向けた取組を強化し、都の認知症施策に貢献する。	○ 認知症支援推進センターとして、都内の認知症サポート医、認知症疾患医療センター相談員、認知症支援コーディネーター等への研修や認知症に対応する看護師の能力向上を目的とした研修、島しょ地域への訪問研修等を実施し、地域の認知症対応力の向上を図る。また、都内の地域拠点型認知症疾患医療センターが実施する各研修について評価・検証を行うワーキンググループ事務局として活動を推進する。 ○ 「認知症とともに暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業」の評価・検証等を行い、地域における認知症支援体制の構築に貢献する。
③	○ 高齢者が心身の健康を維持し地域での生活を継続できるようにするため、病院、研究所で培った知見、ノウハウを生かした介護予防の推進及び健康の維持・増進に向けた取組を強化し、都の介護予防施策に貢献する。	○ 東京都介護予防推進支援センターとして、区市町村・地域包括支援センター職員等に対する研修や、地域で介護予防に取り組む職員等に対する相談支援の実施、介護予防事業等へのリハビリテーション専門職の派遣などにより、介護予防に取り組む区市町村を支援する。 ○ サルコペニア、フレイルなどに代表される高齢者特有の症候群・疾患を有する患者のQOL向上のため、多職種協働による医療の提供や専門外来を実施する。

2 評価指標等

評価の視点 及び 想定する取組	※「◆」は令和2年度計画上の取組	参考値 ※経年比較	備考
【視点①】 研究成果の臨床応用、実用化に向けて、トランスレーショナル・リサーチを推進しているか	(1) TRの推進に向けた取組 ○TRの推進に向けた取組状況 ◆健康長寿イノベーションセンター(HAIC)を中心とした包括的な支援	・研究助成課題件数 ・TR情報誌発刊回数 ・研究支援セミナー開催件数	
	(2) TRの実績 ○研究成果の臨床応用・実用化に向けた取組 →TRによる個々の研究成果は主に項目10(自然科学)・項目11(社会科学)で見る ◆臨床研究の実施 ○外部機関との臨床研究の共同実施に向けた取組状況 ◆TOBIRAを活用した産・学・公の連携	・倫理審査委員会実施回数 ・TOBIRA研究発表数	
【視点②】 医療・研究の一体的取組により培った知見やノウハウを活かして都の認知症施策に貢献しているか	(3) 認知症に係る研究成果の活用 ○認知症支援推進センターとしての取組状況 ◆認知症サポート医や認知症疾患医療センター相談員に対する研修の実施 ○認知症疾患医療センターとしての取組状況 →主に項目3「認知症医療」で見る ○その他、認知症に係る研究成果の活用状況 ◆認知症ケアモデル事業の評価・検証	・研修開催実績(回数、受講者数)	
	(4) 介護予防に係る研究成果の活用 ○介護予防・フレイル予防推進支援センターとしての取組状況 ◆区市町村・地域包括支援センター職員に対する研修の実施 ◆地域で介護予防に取り組む職員に対する相談支援 ◆介護予防事業等への専門職の派遣 ○その他、介護予防に係る研究成果の活用状況 ◆サルコペニア、フレイル等に対する多職種協働の医療の提供	・研修開催実績(回数、受講者数) ・相談件数 ・専門職派遣件数	

項目 15 高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成

1 中期目標及び中期計画

視点	中期目標	中期計画
①	○ 高齢者の医療・介護を支える身近な地域の専門人材の育成を引き続き推進する。	○ 研修プログラムの見直しなど新しい専門医制度への対応と研修医の受入れを進めるとともに、他の医療機関や研修関連施設と連携し、高齢者医療や老年医学の研修教育を行う。
②	○ 高齢者の医療・介護を支える専門人材の育成を全般的に推進する。	○ 高齢者看護の実践能力を認定する院内看護師認定制度を策定するとともに、都内病院への発信を目指す。また、センターがこれまで蓄積してきた高齢者医療・研究の実績やノウハウについて、都と連携し、高齢者医療モデルとして普及する。
③	○ 次代の高齢者医療・介護を担う専門人材や研究者の育成に取り組み、法人が有する高度な技術、成果等を継承する。	○ 医師、看護師、医療専門職等の講師派遣や研修会・公開CPC等を通じて、高齢者医療への理解促進と次世代の医療従事者及び研究者の人材育成に貢献する。 ○ センターの特長を生かした実習を充実させることにより、看護実習生及び医療専門の実習生を積極的に受け入れるとともに、連携大学院等から若手研究者を積極的に受け入れ、養成を図る。

2 評価指標等

評価の視点 及び	想定する取組 ※「◆」は令和2年度計画上の取組	参考値 ※経年比較	備考
【視点①】 高齢者の医療・介護を支える身近な地域の専門人材の育成を推進しているか 【視点②】 高齢者の医療・介護を支える専門人材の育成を全般的に推進しているか	(1) 地域及び都における人材育成の取組		
	○地域及び都における人材育成の取組状況 ◆地域及び都内の医療・介護関係者に対する研修会等の実施や講師派遣 ◆地域及び都内の医療・介護関係者からの実習生等の受入れ ◆認知症支援推進センターや介護予防・フレイル予防推進支援センターにおける研修等の実施	・講演会や研修の開催実績（回数、参加者数） ・講演会等への講師派遣回数 ・実習生等の受入人数 ・認知症支援推進センターや介護予防・フレイル予防推進支援センターにおける研修開催実績	
【視点③】 次代の高齢者医療・研究を担う専門人材や研究者の育成に取り組んでいるか	(2) 次世代の育成に向けた取組		
	○次世代の育成に向けた取組状況 ◆研修会等の実施や講師派遣 ◆医療・看護の実習生や若手研究員等の受入れ	・医療・看護の実習生、学生・若手研究員等の受入人数	

項目 16 地方独立行政法人の特性を生かした業務の改善・効率化

1 中期目標及び中期計画

視点	中期目標	中期計画
①	○ 地方独立行政法人として自律性を発揮し、効率的・効果的に業務を推進する。	○ 機動的な経営判断や予算執行を可能にする組織体制を確保し、都民ニーズや環境変化に対応した効率的・効果的な業務の推進を図る。 ○ DPCデータや財務情報、電子カルテ等の医療に係るデータに基づく病院経営を推進する。
②	○ 質の高い医療・研究を継続的に行うため、都派遣職員の派遣解消計画を踏まえ、法人固有職員の計画的な採用を行う。	○ 都における高齢者医療・研究の拠点としての将来像を見据え、長期的なセンター固有職員の採用・育成計画を策定するとともに、優秀な人材の迅速な採用を行い、質の高い組織体制の確保を図る。
③	○ 働きやすさに配慮した職場環境の整備や研修体系の工夫等、優れた人材の確保・定着や職員の専門性向上につながる取組を実施する。	○ 多様な勤務形態の導入についての検討を行い、ライフ・ワーク・バランスに配慮した、働きやすく職員満足度の高い職場環境の整備を進める。 ○ 他病院や他施設との人事交流、外部の教育機関等における専門的な研修の実施など、職員の能力・専門性向上に向けた多面的な取組を行う。 ○ 医師、看護師、医療技術職員の専門資格の取得を推進するとともに、大学院への進学支援などにより医療技術の向上を図る。また、学術集会や研究会での発表、論文作成などを奨励し、職員の学術レベルの向上を図る。
④	○ 法人の認知度向上、事業への理解促進に向け、都民、関係機関に対する情報発信力を強化する。	○ 都と連携し、病院や研究所の各種取組・成果について全都的な普及・還元を図るとともに、ホームページやSNS等の情報発信ツールの積極的な活用を行い、都におけるセンターの認知度向上に努めていく。

2 評価指標等

評価の視点 及び	想定する取組 ※「◆」は令和2年度計画上の取組	参考値 ※経年比較	備考
【視点①】 地方独立行政法人として自律性を発揮し、効果的・効率的な業務運営を行っているか	(1) 効率的・効果的な業務の推進 ○効率的・効果的な業務の推進に向けた取組状況 ◆経営戦略会議等における機動的な経営判断や弾力的な予算執行 ◆データに基づく経営の推進 ○職員による自発的な業務の改善・効率化の進捗状況 ◆職員提案制度の活用	・職員提案制度提案件数・取組件数	
【視点②】 働きやすさに配慮した職場環境の整備や、優れた人材の確保・定着、職員の専門性向上に取り組んでいるか	(2) 法人内の人材確保・育成 ○法人内の人材確保・育成に向けた取組状況 ◆センター固有職員の採用・育成計画の策定 ◆専門資格の取得支援や学術レベルの向上に向けた支援の実施 ◆他機関との人事交流や派遣研修の実施 ○働きやすさに配慮した職場環境に向けた取組状況 ◆働き方改革への対応	・採用実績（研修医等受入数、看護師採用数） ・専門資格の取得状況 ・年休取得日数	
【視点③】 都民、関係機関をはじめ、都におけるセンターのプレゼンス向上に取り組んでいるか	(3) 情報発信 ○法人のプレゼンス向上に向けた取組状況 ◆病院や研究における各種取組・成果の全都的な発信 ◆情報発信ツールの活用	・都民向け講座等の開催実績（回数、参加者数） ・HP アクセス件数	

項目 17 適切な法人運営を行うための体制の強化

1 中期目標及び中期計画

視点	中期目標	中期計画
①	○ 法人内の各組織の権限・意思決定プロセスの明確化、業務監査の実施による内部監査体制の強化など、内部統制を着実に実施する。	○ より適切なセンター運営を行うための組織体制の不断の見直しや業務監査の実施による内部監査体制の強化などを進め、一層の経営機能の向上とセンター運営の透明性・健全性の確保を図る。
②	○ 法人運営の透明性・健全性を確保するため、外部の専門家等の意見を活用するとともに、業務実績や経営情報の公表など、積極的な情報公開に努める。	○ 運営協議会や研究所外部評価委員会をはじめ、センター外部からの意見・評価等を受ける場を確保し、その意見等を業務改善などに積極的に生かしていく。 ○ 財務諸表等の経営情報や臨床指標・診療実績等の医療の質に係る各種指標をホームページに掲載し、センター運営や医療に係る情報公開と透明性の確保を図る。
③	○ 法令及び行動規範の遵守、倫理の徹底を図る。	○ 医療法（昭和23年法律第205号）をはじめとする関係法令及び高齢者医療・研究に携わる者としての行動規範の遵守と倫理の徹底を図る。

2 評価指標等

評価の視点 及び	想定する取組 ※「◆」は令和2年度計画上の取組	参考値 ※経年比較	備考
【視点①】 内部統制を着実に実施しているか	(1) 内部統制の確保		
	○内部統制の確保に向けた取組状況		
	◆内部監査体制の強化		
	◆監事、会計監査人と連携した法人運営の適正性の確保		
	◆業務方法書に基づく内部統制体制の整備		
【視点②】 法人運営の透明性・健全性を確保しているか	○外部委員からの評価の活用状況		
	◆運営協議会や外部評価委員会の開催及び得られた意見・評価の活用		
	(2) 法人運営の透明性・健全性		
	○情報公開に係る取組状況		
	◆外部有識者による評価の公表		
【視点③】 法令遵守・倫理の徹底に取り組んでいるか	◆財務諸表や医療の質に係る各種指標の公開		
	(3) 法令遵守・倫理の徹底		
	○法令、行動規範、倫理の徹底に向けた取組状況（法人全体）		
	◆研修等の実施によるコンプライアンスの強化		・研修開催実績（実施回数、参加者数、参加率）
	◆倫理委員会の適正な運用等による倫理の徹底		
	◆障害者差別解消法に基づく適切な対応		
	○研究倫理の徹底や不正防止に向けた取組状況		
	◆倫理委員会の適正な運用等による倫理の徹底		・関連委員会等の実施状況
◆研究不正防止対策の推進			

項目 18 収入の確保

1 中期目標及び中期計画

視点	中期目標	中期計画
①	○ 患者の積極的な受入れ、適切な未収金対策などを実施するとともに、診療報酬改定に着実に対応し、医業収入を確保する。	○ 地域連携の強化や救急患者の積極的な受入れ、逆紹介の推進等による外来の効率化などを進め、積極的な医業収入の確保に努める。 ○ 診療報酬制度の改定など医療を取り巻く環境の変化に迅速に対応し、施設基準の取得や診療報酬の請求漏れ防止策、未収金対策を図る。 ○ 予定入院患者に対する入院前検査などを進めることで病棟負担の軽減を図り、これまで以上に手厚い医療・看護サービスの提供と在院日数の短縮を図る。
②	○ 競争的研究費や共同研究費、受託事業費など外部研究資金を獲得するとともに、研究成果の実用化に向けた取組の促進や、知的財産の積極的な活用を図る。	○ 新たな研究支援組織によるサポートの下、医療と研究との一体化というメリットを生かし、受託・共同研究、競争的研究資金など、外部研究資金の積極的な獲得に努めるとともに、成果の実用化や臨床応用の推進、知的財産の活用を図り、広く都民に普及・還元する。

2 評価指標等

評価の視点 及び	想定する取組 ※「◆」は令和2年度計画上の取組	参考値 ※経年比較	備考
	(1) 当該年度のパフォーマンス（収支の状況）	<ul style="list-style-type: none"> ・経常収支比率 ・医業収支比率 ・自己収支比率 ・修正医業収支比率 ・1人1日入院単価、1人1日外来単価 	
【視点①】 医業収入の確保に取り組んでいるか	(2) 収入の確保（病院）		
	○積極的な患者の受入れ等による収入確保 ◆救急患者の積極的な受入れ ◆地域連携の強化 ◆入退院支援の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・延入院患者数、延外来患者数 ・1日あたり入院患者数、1日あたり外来患者数 ・新入院患者数 ・初診料算定患者数 ・紹介患者数 ・病床利用率（病院全体） ・平均在院日数（病院全体） 	
	○診療報酬改定等に対応した収入確保の取組状況 ◆新たな施設基準の獲得 ◆請求漏れ防止 ◆査定率減	<ul style="list-style-type: none"> ・査定率 	
	○その他、病院における収入確保の取組状況 ◆未収金対策	<ul style="list-style-type: none"> ・未収金率 	
【視点②】 研究について収入の確保に取り組んでいるか	(3) 収入の確保（研究所）		
	○外部研究資金獲得に向けた取組状況 ◆競争的研究費の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・外部資金獲得件数、外部研究資金獲得金額 ・科研費新規採択率 ・共同・受託研究等実施件数 	
	○知財管理等の取組状況 ◆研究成果の実用化や臨床応用の推進		
	◆知的財産の活用		

項目 19 コスト管理の体制強化

1 中期目標及び中期計画

視点	中期目標	中期計画
①	○ 電子カルテデータやDPCデータなど、各種データ等を用いた経営状況の分析を行う。	○ 電子カルテやDPCデータなどの各種診療情報と診療材料等の材料費をはじめとする各種コストや財務情報の多角的な分析を強化し、収入確保の強化と同時に徹底的なコスト削減を推進する。 ○ 長期更新計画等に基づき医療機器等の効率的・効果的な整備を推進するとともに、リース・レンタルなどの導入方法についても検討し、調達コストの抑制を図る。
②	○ 病院、研究所における部門ごとに、費用対効果の改善に向けた目標を設定し、進行管理を行う。	○ 病院、研究所の双方において、経営意識やコスト管理意識の醸成を図るべく、各診療科や研究テーマ等の単位で目標設定を行い、ヒアリング等を通じて進行管理を行う。
③	○ 病院における部門ごとに、原価計算を行い、収支管理に活用する。	○ 診療実績など各部門の活動状況や経営改善の状況の適切な分析に向け、原価計算を継続して実施し、経年比較を行うことにより、病院全体でコスト意識の向上を図る。

2 評価指標等

評価の視点	及び 想定する取組 ※「◆」は令和2年度計画上の取組	参考値 ※経年比較	備考
【視点①】 各種データを用いた経営分析を行っているか	(1) データ分析に基づくコスト削減の取組状況		
	○データ分析に基づくコスト削減の取組状況		
	◆医療戦略室等における経営分析の実施		
	◆材料費や医薬品費の抑制	・材料費対医業収益比率	
【視点②】 病院・研究所における部門ごとに費用対効果の改善に向けた目標を設定し、進行管理を行っているか 【視点③】 病院における部門ごとに原価計算に基づく収支管理を行っているか	◆長期更新計画等に基づく医療機器等の効率的・効果的な整備		
	◆調達コスト抑制に向けた取組	・競争入札実施件数	
	(2) 進行管理・収支管理の実施状況		
	○職員の経営意識やコスト管理意識の醸成に向けた取組状況		
	○進行管理の取組状況		
	◆部門ごとの目標設定とヒアリング等による進行管理		
	○病院部門における原価計算に基づく収支管理の実施状況		

項目 20 その他業務運営に関する重要事項（法人運営におけるリスク管理の強化）

1 中期目標及び中期計画

視点	中期目標	中期計画
①	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人情報の適切な管理を行い、事故防止対策を確実に実施する。 ○ 業務運営上必要な情報を適切に管理・共有し、組織的なリスクマネジメントを徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ センターの個人情報保護方針及びその他の関係法令等を遵守し、個人情報保護の徹底を図る。また、システムに係る強固なセキュリティ対策の実施や研修等を通じた個人情報保護の重要性の周知を推進し、ハード・ソフトの両面から、組織全体での個人情報保護の強化に努める。
③	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健全な業務活動を確保するため、職員の健康管理及び安全な職場環境の確保に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員が安心して医療・研究活動に従事することができるよう、健康管理及び安全に業務を遂行できる良好な職場環境の確保に取り組む。
④	<ul style="list-style-type: none"> ○ 災害や新型インフルエンザの発生等の非常時を想定し、法人内の危機管理体制をより一層強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大規模災害や新型インフルエンザ発生等の非常事態に備え、行政の方針や地域の医療機関等との役割分担などを踏まえながら、引き続き、センター内部の危機管理体制の整備を図る。

2 評価指標等

評価の視点	及び 想定する取組	※「◆」は令和2年度計画上の取組	参考値 ※経年比較	備考
【視点①】 情報の適切な管理・共有による組織的なリスクマネジメントを徹底しているか	(1) 情報管理	<ul style="list-style-type: none"> ○情報管理の徹底に係る取組状況 ◆研修等の実施による職員の意識向上や管理方法の徹底 ◆システムに係るセキュリティ対策の実施 		・研修実施実績（参加率）
【視点②】 職員の健康管理、職場環境の確保に向けて取り組んでいるか	(2) 職員の健康管理、職場環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○職員の健康確保・良好な職場環境の確保に向けた取組状況 ◆ハラスメント防止体制の強化 ◆健康診断の受診促進やメンタルヘルス研修等の実施 		
【視点③】 災害等、非常時を想定し、危機管理体制の強化に取り組んでいるか	(3) 危機管理体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○非常事態を想定した危機管理体制の確保に向けた取組状況 ◆BCP や危機管理マニュアルに基づく訓練の実施等 		

【項目1 血管病医療】

○心臓血管疾患

弁膜症
経カテーテル的大動脈弁治療
心不全
循環補助用心内留置型ポンプカテーテル
血管疾患
胸部大動脈瘤手術
うちステントグラフト内挿術
腹部大動脈瘤手術
うちステントグラフト内挿術
下肢静脈瘤血管内焼灼術

○脳血管疾患

コイル塞栓術
ステント留置術

【項目2 高齢者がん医療】

○低侵襲な鑑別診断

	NBI 内視鏡検査	消化器がん
	コンベックス超音波内視鏡下穿刺術	膵がん、悪性リンパ腫等
	超音波気管支鏡ガイド下針生検	肺がん
肺	ガイドシース併用気管支腔内超音波断層法	がん
	内視鏡的逆行性膵胆管造影検査	閉塞性黄疸等

○低侵襲ながん治療

胃	腹腔鏡下手術	がん、大腸がん
肺	胸腔鏡下手術	がん、食道がん
消	内視鏡下粘膜下層剥離術（ESD）	化器がん
消	内視鏡的粘膜切除術（EMR）	化器がん